

「国及び都の文化政策に関する提言(案)」に対する

山本評議員からのコメント

現在、私の友人の演出家が演出とプロデュースを学ぶため、シルクドソレイユの本拠地であるカナダ・モントリオールに一年間留学中です。東京出身の彼女は、国そのものの文化に寄せる思いがカナダと日本では桁違いだ、日本は貧困であると明言しています。予算額全体も日本は小ぶりです。しかしながら、公的機関の予算が少ないにもかかわらず、日本のアーティストやクリエイターはとても良く頑張っているということも言っております。文化戦略における根本の議論を国とするべきではないでしょうか。仕分けをお許し願いたいと表現される小澤征爾氏がテレビ画面に写っていましたが、誠に情けないと個人的に思っております。分野が多いために予算が分割されるという側面もあることは存じております。例えば、エジンバラは 17 億円強、フランス・アヴィニオンは 10 億円強といった予算をかけています。国や都が、税制を含め、もっとその姿を省みるべきではないでしょうか。かつて 1993 年ロシア・モスクワ・赤の広場にて、12 万人もの市民が無料で私の総指揮をしたスーパーショーを観にいらっしゃいました。使ったお金は、私が集めた 2 億円です。私の東京の友人達は、ロシアが困っているならばパンを持って行ってあげたらいいではないかと言いました。しかし、ロシアの方々は、パンも欲しいが、それ以上に文化や熱い人のエネルギーを欲していると言われました。繰り返しになりますが、私は、人生と芸術、文化というものの距離がもっと根本的に近づくべき、一体となるべきと強く信じております。